

社会科学習指導案（公民的分野）

平成 27 年 6 月 16 日（火）

5 校時（14:00～14:50）

展開学級 3 年 A 組

場 所 3 年 A 組教室

授 業 者 栗 林 雅 人

1. 単元名 現代社会とわたしたちの生活

2. 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の公民的分野内容（1）「私たちと現代社会」ア「現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる」ことを目的としている。

現代社会は、日々目まぐるしいほど急速に変化を遂げている。この変化に大きな影響を及ぼしているのが、世界的にみられる少子高齢化・情報化・グローバル化の流れである。1990 年代以降、コンピュータやインターネットの急速な普及が情報化やグローバル化を押し進めた。ヒト・モノ・カネ・情報の国境を越えた移動が瞬時に、安価にそして頻繁に行われるようになった。例えば、国境を越えた投資や世界の海外旅行者数、国際間の物流量などは飛躍的に増大している。また、工業製品の規格の世界標準化や日本企業における英語公用語化なども進んでいる。このような直接的な影響だけではなく、欧米の生活様式を取り入れたり、安くて便利な外国製品を輸入したりして、人々のライフスタイルや価値観などといった部分にまで情報化やグローバル化は影響を及ぼしている。

また、多くの先進国にみられる問題として少子高齢化があげられる。中でも日本は世界に類を見ないほどの速さで進行しており、この問題にどのように取り組んでいくのか、世界的にも注目が集まっている。日本は、2010 年をピークに人口減少時代に突入した。少子化の背景に挙げられている主なものとしては、一つ目に、結婚や子供を持つことについての価値観の多様化がある。例えば、「結婚しなくても良い」「結婚したからといって子どもを持たなくても良い」といった考え方が珍しくなくなった。自分の自由な時間や行動を確保するために、結婚する年齢が遅くなったり、生涯未婚でいる人も増加したりしている。二つ目に、働く女性の増加がある。以前は夫を支えるために、結婚すると仕事をやめて専業主婦になる人が多かった。現在は仕事にやりがい求めて働き続ける女性が増えている。育児休業などの整備や保育所の数が不十分のため、子供を育てながら働くことが難しいと感じている人も多い。三つ目に、経済的な要因がある。子どもを育てるための費用が教育費を中心に多くなり、経済的な負担が大きくなっている。また、非正規雇用者の増加や年功序列・終身雇用制をとらない企業が増えてきたことにより、収入が安定しない若年層が増えたことも少子化につながっている。

進む少子化について、日本はこれまで何も手を打たなかったわけではない。市町村レベルでは、例えば中学校を卒業するまで子どもの医療費の無料化や、地方自治体が主体となった就労支援等が功を奏し、改善に成功している自治体も見られる。国レベルでは、育児休業を取りやすく、職場復帰をしやすい環境の整備や子ども手当の給付等を行ってきた。近年の日本の出生率は、若干持ち直してはい

るものの、いまだ低水準が続いており、現在の政策が少子化対策として有効とは言い難い状況である。今後も少子高齢化の流れが大きく改善されることは考えにくく、将来社会で生きていく生徒にとって他人事では済まされない問題である。急速な少子高齢化は人口構造の問題にとどまらず、社会の活力の低下とそれに伴う経済停滞、医療費・年金・介護費の増大による若年層の税金負担、若年層の高額な税負担による生活の困窮化、社会保障費の増大による国家財政の破綻の可能性といった問題が生じることが予測され、将来社会で生きていく生徒にとって根が深い問題になることは間違いない。以上のように、現代社会は少子高齢化・情報化・グローバル化を受けて大きく変動している。

指導するにあたり、この単元は公民的分野全体の導入であるため、学習する内容と現代社会のつながりを意識し、身近にみられる問題として捉え、公民的分野を初めて学習する生徒に興味を持たせるような授業を行いたい。そのために、これらの内容を学習する必要性や意義を感じられるように、単に基本的な知識を身につけさせるだけの学習ではなく、話し合い活動や資料などから考えさせる発問などを積極的に取り入れたい。また、これらを学習する中で現代社会の特質に気づき、概観をつかませることは、以後公民の授業で扱う政治や経済、国際社会の内容にもつながっていくと考え、本単元を設定した。

(2) 千葉県教育研究会社会科部会研究主題との関わり

千葉県教育研究会社会科部会の研究主題は『みえる わかる・・・いかす』よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科学習」である。この主題設定の理由(1)現代社会の要請の中には、「政治・経済や少子・高齢化問題、環境問題などの課題解決に積極的に取り組み、よりよい社会の形成に参画し行動することが求められる」とある。

少子高齢問題は現代社会における根本的な問題の一つであり、政治・経済・国際関係等あらゆる場面に影響を及ぼしている。この問題が最も深刻といえる我が国にあり、自分たちの問題という意識を強く持ち、解決していこうとする姿勢は「社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う」という部分に合致すると考える。個人レベルで解決することは難しいが、生徒にはこのような問題が身近にあることを実感し、解決策を考えることで、よりよい社会をつくろうとする姿勢を養いたい。

(3) 本校研究主題との関わり

本校の研究主題は「確かな学力の育成ー学習意欲の向上と基礎学力の定着を通してー」である。これに則り、「基礎、基本を身につけ、表現力を高める指導方法の工夫」を社会科の研究主題とし、研究目標(2)に「言語活動の充実を図り表現力を高める」と設定した。

本単元では、まとめとして少子化問題に対する解決策を考える班活動を行う。その際に話し合い活動を活発にし、さまざまなアイデアを引き出すために、ブレインストーミングの手法を取り入れた。自らの意見を表現することや、さまざまな意見をもとに多面的・多角的に判断し、決定するといった活動によって、研究目標の達成につなげたい。

3. 生徒の実態(省略します)

4. 単元について

(1) 単元の目標

- ①グローバル化、情報化、少子高齢化などの現代日本の特色に関心を持ち、それらの影響や関連性などについて、意欲的に追及している。(関心・意欲・態度)
- ②グローバル化、情報化、少子高齢化などが政治、経済、国際関係に影響を与えていることについて、様々な資料をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。(思考・判断・表現)
- ③様々な写真や統計資料などから、現代日本の特色や社会の変容などを適切に読み取っている。(技能)
- ④グローバル化、情報化、少子高齢化が、互いに関連し合いながら、政治、経済、国際関係に影響を与えていることを理解している。(知識・理解)

(2) 単元の指導計画と評価規準 (4時間扱い)

時	学習内容と活動	評価規準
1	○グローバル化 ・グローバル化について ・グローバル化の影響	①グローバル化が私たちの生活にどのような影響をもたらしているのかを考え、自分なりの言葉で説明できる。(思考・判断・表現) ②日常の様々な場面でグローバル化がみられることを理解する。(知識・理解)
2	○情報化 ・情報化について ・情報化社会で注意すべきこと	①情報化社会がもたらす便利さと問題点を考察し、情報化社会への対応の仕方について、自分の考えを表現できる。(思考・判断・表現) ②情報化による社会の変化について理解している。(知識・理解)
3	○少子高齢化 ・少子高齢化について ・少子高齢化の原因	①少子化が進行した原因について、多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断・表現) ②日本の人口構成のグラフから、少子化、高齢化の進行を読み取ることができる。(技能)
4 本 時	○少子化問題解決に向けた対策 ・少子高齢化を止める具体的な方法	①少子化問題に対して、班での話し合い活動に積極的に参加している。(関心・意欲・態度) ②少子化に歯止めをかける具体的な方策について、さまざまな意見を参考にしながら多面的・多角的に考察し、表現することができる。(思考・判断・表現)

5. 本時の指導（4／4時間）

（1）本時の目標

- ①少子化問題に対して、班での話し合い活動に積極的に参加している。（関心・意欲・態度）
- ②少子化に歯止めをかける具体的な方策について、さまざまな意見を参考にしながら多面的・多角的に考察し、表現することができる。（思考・判断・表現）

（2）本時の展開

過程	時配	学習内容と活動	留意点（○）および評価（◇）
導入	5分	1. ソフトバンクの取り組み ・ソフトバンクではいくらの出産祝い金もらえるのかをクイズで予想する。 第1子：5万円 第2子：10万円 第3子：100万円 第4子：300万円 第5子：500万円 →なぜこのような取り組みをしているか。	○CM等で知名度の高いソフトバンクの取り組みを紹介し、興味を持たせる。 ○パワーポイントを活用する。
少子化問題解決に向けた対策を考えよう。			
展開	5分	1. 少子化が進行している背景として、前時で学習したことを振り返る。 ・価値観の多様化 ・経済的な要因 ・働く女性の増加 など	○挙げられた内容を黒板に提示する。 ○少子化の背景として考えられるものを確認させる。
	5分	2. 少子化問題解決に向けて国や地方自治体レベルで、どのような対策が考えられるか個人で付箋に書く。 ・補助金の支給 ・保育所増設 ・育児休暇のための法整備 ・医療費や授業料の無料化 ・若者の就職支援 など	○はじめは個人で、できるだけたくさん自由に考えさせる。 ○前に挙げた少子化の背景を踏まえて考えるように指示をする。
	8分	3. 班の隊形にし、個人で考えた付箋を1枚の紙に貼り、意見を集約する。また、他にどのような対策が考えられるか班で話し合う。	<u>話し合いのポイント</u> ・班で10個以上のアイデアを出す。（質より量を重視する） ・アイデアを批判しない ・奇抜な考えやユニークなアイデアを歓迎する ・他の人が出したアイデアを生かす

	7分	4. 班でアイデアを整理し、より効果的なアイデア 1~2 つに絞り、具体的な対策とそのキャッチフレーズについて考える。	<p>○話し合いがうまく進められないグループには、多角的に考えるように助言する。</p> <p>◇積極的にアイデアを出すことができたか。(関・意・態)</p>
	10分	5. 班で選んだ方法を全体の前で発表する。	<p>◇根拠を示し、説得力のある発表ができたか。(思・判・表)</p>
まとめ	5分	1. 今日の授業を受けて、有効だと思った少子化対策や感想を記入する。	◇さまざまな意見を参考にしながら、考察し、表現することができているか。(思・判・表)
	5分	2. 千葉市が少子化対策としてとりくんでいる事例を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出産育児一時金 ・ 2年連続待機児童 0 ・ チーパスによる子育て応援サービス <p style="text-align: right;">など</p>	○私たちが住んでいる千葉市でも少子化対策の取り組みがされていることを認識させる。

(3) 本時の評価

- ①少子化に歯止めをかける具体的な方策について、さまざまな意見を参考にしながら多面的・多角的に考察し、表現することができたか。(思考・判断・表現)
- ②少子化問題に対して、班での話し合いに積極的に参加することができたか。(関心・意欲・態度)